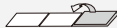


この取扱説明書をお読みいただく際は、左ページの時計図を開いた状態でお読みください。

When reading this instruction manual please keep the watch diagram at left folded out and in view.

時計図を開いた状態
でご覧ください



この時計の修理について

この時計は、バンドを除くすべての修理は「メーカー修理」となります。
修理、点検の際は最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

Repairs

All part of this watch, excluding the band, are to be repaired only at CITIZEN. Please have all inspections and repairs performed at a Citizen Consumer Help Desk or your nearest Customer Support Center.

このたびは、シチズンウォッチをお買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は大切に保管し必要に応じてご覧ください。
また、シチズンホームページの『時計の操作ガイド』で操作説明がご覧いただけます。
URL： <http://citizen.jp/support.html>

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）



このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

目次

電波受信

- 1. 上手に受信するために..... 16
- 2. 受信が困難な場所について..... 17
- 3. 受信の方法..... 18
 - A. 受信中の秒針の位置..... 20
 - B. 受信結果の確認方法..... 21

手動による時刻、カレンダーの合わせ方

- 4. 時刻の合わせ方..... 22
- 5. カレンダーの合わせ方..... 24
- 6. 時差修正の方法..... 27

基準位置確認と修正方法

- 7. 針補正機能..... 28
- 8. 基準位置確認方法..... 29
- 9. 基準位置の手動修正方法..... 30

光発電

- 10. 光発電機能について..... 32
- 11. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について..... 34
 - A. パワーセーブ機能..... 36
 - B. 充電警告機能..... 38
 - C. 過充電防止機能..... 39
 - D. 充電時間の目安..... 40
 - E. 取り扱い上の注意..... 42

故障かな？と思ったら..... 44

お取り扱いにあたって..... 48

製品仕様..... 56

保証とアフターサービスについて..... 58

受信困難なお客様へ..... 60

お問い合わせ窓口..... 61

商品の特徴

人体や医療機器への影響は一切ありませんので、安心してご使用ください。(時計から電波を発信することはありません。)

- ◎福島と九州の2局から送信される標準電波(時刻情報)を自動的に受信環境の良い局を選んで受信し、時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。
- ◎光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を動かす、光発電機能を持ったエコドライブ電波時計です。文字板に光が当たっていないときに、時計の消費電力を抑えるパワーセーブ機能を備えています。
- ◎この時計は、海外でのご使用に便利な時差修正機能つきです。時差のある地域へ行ったとき、現地時刻へ簡単に合わせることができます。

Perfex
パーフェックス

- 「JIS 1種耐磁時計」、「衝撃検知機能」、「針補正機能」という3つの機能を一体化させることによって、衝撃や磁気などの外部要因による針ずれを防止しています。

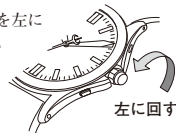
* JIS 1種耐磁時計とは、日常生活で磁界を発生する機器に5cmまで近づけても時計の性能を維持します。

りゅうずの操作方法

りゅうずには“通常のもの”と“ねじロックりゅうず”のモデルがあります。

《ねじロックりゅうずの場合の操作方法》

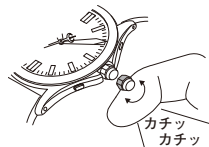
りゅうずを左に回します。



ねじロックが解除されると、りゅうずが少し飛び出し、りゅうずが通常位置になります。



《針を連続運針させるには》

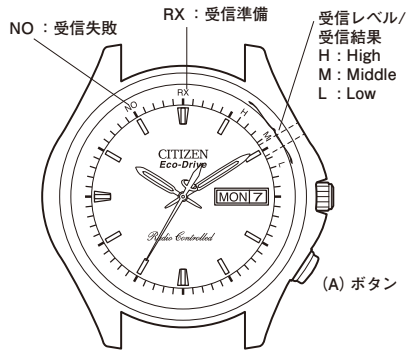


素早く連続回転(2クリック以上)させてください

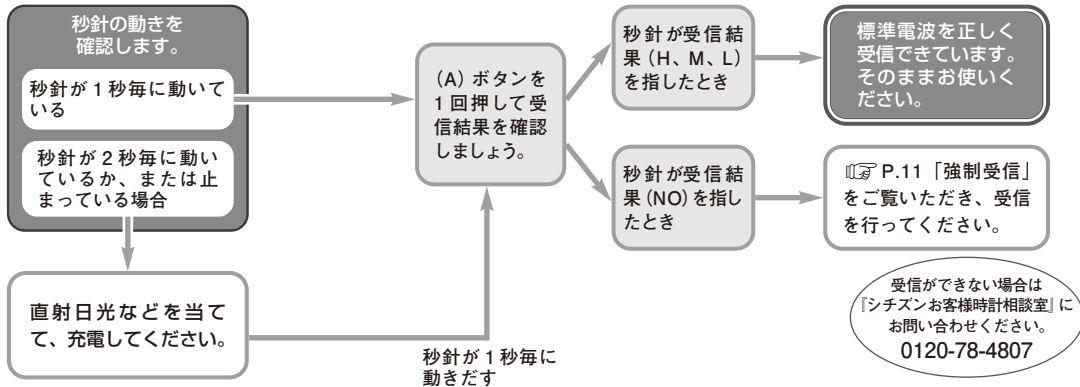
りゅうずを1段引き、2段引き位置で、右または左に素早く連続回転(2クリック以上)すると、針(時針、分針、秒針)およびカレンダー(曜日、日付)が連続で動きます。連続運針を止める場合は、りゅうずを右または、左に回転(1クリック)させます。

※りゅうずが、カチッと指先に軽いクリック感を感じます。

ご使用になる前にお確かめください



*お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

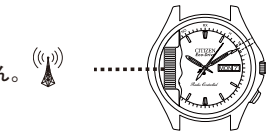


電波受信について覚えてください

定時受信 (自動受信)

- 定時受信はボタンの操作など必要ありません。

毎日午前2時に受信を行い、受信ができなかった場合は、再度午前4時に自動的に電波を受信し時刻とカレンダーを合わせます。



送信所の方向については「 P.12 受信可能地域の目安」をご覧ください。

《受信の方法》

- 時計を腕から外し、9時位置(受信用アンテナ位置)を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

《受信の確認》

定時受信時間以降に受信結果が確認できます。

- (A) ボタンを1回押してください。
 - ・ 秒針が「H、MまたはL」を指した場合は、受信されたことをお知らせします。
 - ・ 秒針が「NO」を指した場合は、受信ができなかったことをお知らせします。「NO」の場合は、強制受信を行っていただくために、次ページをご覧ください。

強制受信 (手動受信)

- いつでも受信ができます。

受信環境等が変わって、定時受信ができなかった場合に行ってください。

《受信の方法》

- 時計を腕から外し、9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置き、受信中は時計を動かさないでください。
 1. (A) ボタンを約2秒以上押し、秒針がRX (12時位置) に停止したら離してください。
 2. その後、秒針がRX から受信中を示す「H、M、L」に移動します。
 3. 受信が完了すると、秒針が「H、M、L」から1秒遅針に戻ります。(最大15分)



* 詳しい受信の仕方は、本文の P.18 「受信の方法」をご覧ください。

受信可能地域の日安

この時計は標準電波の受信局自動選択機能つきです。受信可能地域の日安は次の通りです。ただし、日の出、日の入りの時間帯や季節の変化、天候（落雷など）により、電波状況は変化します。

受信可能地域はあくまでも日安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

〈電波送信所〉

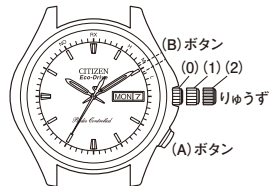
- ・ おおたかどや山標準電波送信所（福島局）
- ・ はがね山標準電波送信所（九州局）

電波時計で利用している標準電波は、ほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。

標準電波が受信できない場合でも、時計は月差±15秒以内の精度で動き続けます。標準電波の送信状態の確認は、弊社ホームページをご覧ください。または、シチズンお客様時計相談室にお問い合わせください。



【各部の機能一覧表】



機能	各ボタンまたはりゅうずの操作
強制受信  P.18	(A) ボタンを2秒以上押し、秒針がRXに止まったら離します。
受信結果確認  P.21	(A) ボタンを1回押します。
時差修正  P.27	(B) ボタンを1回押し、りゅうずをそのまま回し、設定後 (B) ボタンを1回押します。
手動による ・時刻の合わせ方  P.22	りゅうずを2段引き((2)の位置)にします。
・カレンダーの合わせ方  P.24 曜日(和英の切り替え) (うるう年からの経過年)	りゅうずを1段引き((1)の位置)にします。 * (A) ボタンを1回押すごとに 曜日⇒うるう年の修正⇒日付に替わります。

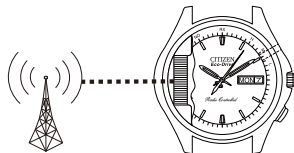
針の動き
秒針がRXに停止し、その後「H、M、L」レベルに移動します。受信レベルを指さない場合は、受信できず通常運針に戻ります。
秒針が「H、M、L」または、「NO」に停止します。
秒針が12時位置に停止します。(時差設定されている場合は、時差分の位置で停止します。) 秒針12時位置が時差±0です。秒針1ステップが1時間分の時差を表示します。
りゅうず右回転で秒針が時計回りに1回転し、分針が1分進みます。 左回転で秒針が反時計回りに1回転し、分針が1分戻ります。 分針・時針を早送りする場合は、りゅうずを素早く連続回転させてください。 ※日付が切り替わったときが午前0時を指します。
時計が記憶している「うるう年からの経過年」の位置に秒針が移動し、停止します。 日付：りゅうず右回転で日付が1日進み、左回転で戻ります。 曜日：(A) ボタンを1回押し、りゅうず右回転で曜日が切り替わり、左回転で戻ります。 ※曜日(英語・日本語)の切り替えは、りゅうず1段引きで(B) ボタンを1回押します。 うるう年：(A) ボタンを1回押し、りゅうず右回転で秒針が1ステップ進み、左回転で戻ります。

電波受信

1. 上手に受信するために

この時計は、時計内部に電波受信用のアンテナ(9時位置側)が組み込まれています。上手に受信するためには、時計を腕から外し、時計の9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置き、受信中は時計を動かさないでください。

環境によって受信レベルが変わります。時計の受信レベル「H、M、L」を参考に、何度か時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す受信しやすい場所および、方向を探してください。

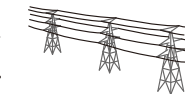


2. 受信が困難な場所について

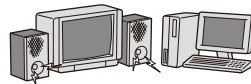
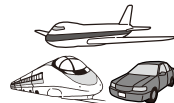
次のような電波ノイズが発生しやすい場所や、電波の届きにくい環境条件下では、電波を受信できないことがあります。



◆極端に高温や低温の場所



◆高圧線(電線)、電車の架線、
飛行場(通信施設)の近く



◆テレビ、冷蔵庫、パソコン、
ファクシミリ等の電化製品や
OA機器の近く



◆通信中の携帯電話の近く



◆鉄筋コンクリート建物の中
高層ビルや山などの谷間、地下

3. 受信の方法

電波の受信方法は定時受信、強制受信、復活自動受信の3つの方法があり、電波を受信するためには、必ず時計を腕から外して受信を行います。

受信が完了すると各針は受信した時刻へ自動的に正転または、逆転で移動し修正されます。

定時受信 (自動受信)

◎時計の9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。毎日午前2時に受信を行い、受信ができなかった場合は、再度午前4時に自動的に受信を行います。

強制受信 (手動受信)

◎いつでも受信ができます。

手順1) (A)ボタンを約2秒以上押し続け、秒針が高速で「RX」(12時位置)に停止したら離してください。

手順2) 時計の9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波を受信しやすい安定した場所に置いてください。

●その後、秒針が「RX」から受信中表示「H、MまたはL」に移動します。

●受信が完了すると、秒針が「H、MまたはL」から1秒運針に戻ります。

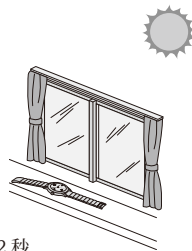
『4. B 受信結果の確認方法』にて確認ができます。

復活自動受信

◎充電不足で時計が止まった後、時計に光を当てて十分に充電すると、一度だけ自動的に受信を行います。充電不足にならないよう、常に充電を心がけてご使用ください。

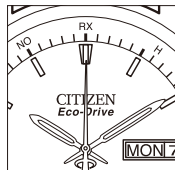
*受信中は各針を停止させた状態で、電波を受信しています。

受信中に時刻を確認したい場合は、(A)ボタンを2秒以上押し、受信をキャンセルしてください。各針はもとの時刻表示にもどります。



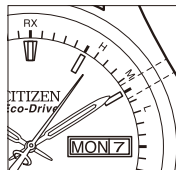
A. 受信中の秒針の位置

【受信準備中】



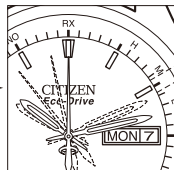
◆秒針がRXに移動し停止します。

【受信中】



◆秒針がRXから受信レベル「H、M、L」に移動し受信をはじめます。

【受信完了】



◆正しく受信した場合は、秒針が1秒運針に戻り、各針が自動的に正しい時刻に修正されます。

〈受信に要する時間〉

当日の天候やノイズ状況により、受信にかかる時間が約2分～最大15分かかることがあります。また、秒針が受信準備中(RX)を指し続け「H、M、L」に移動しない場合、約60秒で通常表示に戻る場合があります。

注意 ▶ 受信中に受信局が切り替わったり、環境変化等によって途中電波が遮られ、秒針が1回転し、再度受信レベルを指すことがあります。1秒運針するまでは時計を動かさないでください。

B. 受信結果の確認方法

◎受信に成功したか、失敗したかを確認することができます。

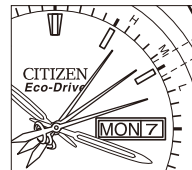
手順1) (A) ボタンを1回押すと、秒針が高速で「H、M、LまたはNO」のいずれかに移動し、受信結果を表します。

手順2) 受信結果を10秒間表示した後、自動的に通常運針に戻ります。

または、表示中に(A) ボタンを1回押すと1秒運針に戻ります。

●「NO」を指した場合は、受信しやすい場所および、方向を探して再度「強制受信」を行ってください。

「H、M、L」は、受信レベルを指すものであり、性能には影響はありません。



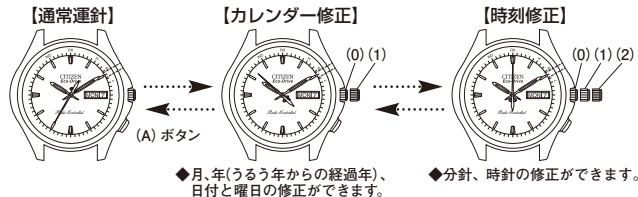
受信レベル	電波受信後の受信結果
H	強い受信レベルで受信したとき
M	やや強い受信レベルで受信したとき
L	弱い受信レベルで受信したとき
NO	受信に失敗したとき

《電波を正しく受信しても、受信環境や時計内部処理により、時刻表示にわずかなずれが生じます。》

手動による時刻、カレンダーの合わせ方

4. 時刻の合わせ方

この時計は電波を受信すると、自動的に時刻、カレンダーが修正されますが、海外など電波が届かない地域でご使用される場合は、手操作で時刻やカレンダーを合わせることができます。電波が届く地域に戻った場合は、定時受信、または強制受信を行ってください。



◎カレンダー修正の「月と年、日付、曜日」モード選択は、(A) ボタンを1回押すごとに切り替わり、りゅうずを回すことによって修正できます。

《時刻修正の手順》

手順1) りゅうずを2段引き((2)の位置)にします。

●秒針が12時位置まで高速運針し、停止します。

手順2) りゅうずを回し「分針、時針」を合わせます。

1. 右に回すと(1クリック)、秒針が時計回りで1回転し、分針が1分進みます。

2. 左に回すと(1クリック)、秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分戻ります。

●りゅうずを連続回転(2クリック以上)させると秒針、分針、時針が連続12時間運針します。

●連続運針を停止させる場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意 ▶ 日付が切り替わったときが午前0時です。午前、午後に注意してください。

手順3) 時報などに合わせて、りゅうずを通常位置に戻してください。

5. カレンダーの合わせ方

《カレンダー修正の手順》

手順 1) りゅうずを 1 段引き ((1)の位置) にします。

- カレンダー修正状態になり、時計が記憶している「月」と「経過年」の位置に秒針が移動し、停止します。

手順 2) りゅうずを回し「日付」を合わせます。

1. 右に回す (1 クリック) と、日付が 1 日進みます。
2. 左に回す (1 クリック) と、日付が 1 日戻ります。

手順 3) (A) ボタンを 1 回押し、りゅうずを回し「曜日」を合わせます。

1. 右に回す (1 クリック) と、曜日が進みます。
2. 左に回す (1 クリック) と、曜日が戻ります。

- 曜日の英語⇄日本語の切り替えはりゅうず 1 段引き ((1)の位置) で、(B) ボタンを 1 回押すごとに替わります。

手順 4) (A) ボタンを 1 回押し、りゅうずを回して、うるう年からの経過年を早見表から読み取り「月」と「経過年」を合わせます。

《秒針による月と年（うるう年からの経過年）の見方》

☆秒針が指す「月」の見方

秒針が 1 時と 2 時の間 : 1 月

秒針が 2 時と 3 時の間 : 2 月

⋮

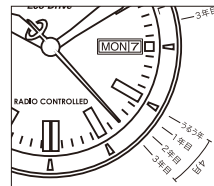
秒針が 12 時と 1 時の間 : 12 月

〈例〉

経過年 3 年目の 4 月
の場合

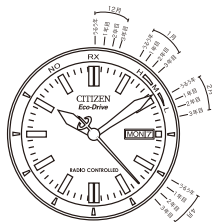
うるう年からの経過年
を経過年早見表から
読み取ってください。

・23 秒 (4 時と 5 時の
ゾーン) の位置に
秒針を合わせます。



《うるう年からの経過年早見表》

年	経過	年	経過	年	経過
2008	うるう年	2012	うるう年	2016	うるう年
2009	1 年目	2013	1 年目	2017	1 年目
2010	2 年目	2014	2 年目	2018	2 年目
2011	3 年目	2015	3 年目	2019	3 年目



☆秒針が指す「経過年」の見方

うるう年：秒針が各月のゾーンの最初の目盛り

うるう年からの1年目：秒針が各月のゾーンの1目盛り目

うるう年からの2年目：秒針が各月のゾーンの2目盛り目

うるう年からの3年目：秒針が各月のゾーンの3目盛り目

手順5) うるう年からの経過年早見表より本年は何年目かを確認し、りゅうずを右に回して(1 クリック)、「月」と「経過年」に対応した位置に秒針を合わせます。左に回すと(1 クリック)、秒針が逆転します。

手順6) りゅうずを通常位置に戻してください。

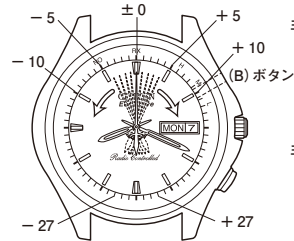
●りゅうず1段引き(1)の位置)で、(A)ボタンを1回押すとごとに、修正する日付、曜日や秒針が動き、修正するモードをお知らせします。

注意 ▶ モデルによって、日付が3日分表示されている時計があります。

このモデルでは、うるう年、小の月(2月、4月、6月、9月、11月)においては3日分、正しく表示されません。

6. 時差修正の方法

時差がある地域に行ったとき、秒針を操作することで、現地の時刻に1時間単位で時差を設定することができます。



手順1) (B)ボタンを1回押すと、秒針が12時位置に停止し、秒針12時位置が時差±0時間です。

※時差設定されている場合は、時差分の位置で停止します。

手順2) りゅうずを引き出さない状態で、右に回すと(1 クリック)、秒針1ステップで時差を+1時間の設定ができます。左に回すと、秒針1ステップで-1時間の設定ができます。

(例) 香港は日本を基準にした場合、-1時間の時差があるので、秒針を59秒位置に合わせます。

●秒針12時位置が日本時間です。日本時間を標準に“±27時間”まで時差設定ができます。

手順3) 時差設定後に(B)ボタンを1回押すか、何も操作しないで60秒経過すると、高速で時差設定時刻を表示後、1秒運針に戻ります。

基準位置確認と修正方法

7. 針補正機能（針の基準位置自動補正機能）

針補正機能（針の基準位置自動補正機能）とは

針の基準位置が適正であるか、一定時間毎に針位置をチェックし、ずれを検出した場合は自動的に秒針、分針、時針を高速で補正し、正しい時刻を保持する機能です。

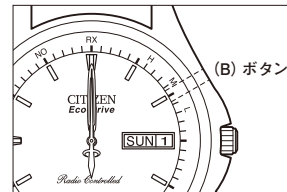
衝撃検知機能とは

時計が衝撃を受けたときに、秒針、分針、時針のずれを防ぐ機能です。

- 万一、強い衝撃や磁気、静電気などの環境におかれた場合は、受信をしても正しい時刻を表示しない場合があります。基準位置を確認してください。
次ページの「9. 基準位置確認方法」をご覧ください。

8. 基準位置確認方法

電波時計は、針の基準位置「0時0分0秒」と日付「1日」、曜日「SUN」をもとにして、受信した標準時刻やカレンダーを表示します。



正しい基準位置の表示

時刻：0時0分0秒
日付：1日
曜日：SUN

◎基準位置が正しく表示されるか確認してください。

りゅうずは通常位置のまま、(B) ボタンを約5秒以上押し続け、秒針が正転または逆転で動きはじめたら離します。すべての針および、カレンダーが高速で運針し、時計の記憶している基準位置で止まります。

●最大約7分かかる場合があります。

正しい基準位置の表示以外の場合は、次ページの「基準位置の手動修正方法」をご覧ください。

9. 基準位置の手動修正方法

時刻「0時0分0秒」、日付「1日」、曜日「SUN」以外を表示した場合は、基準位置修正を行ってください。

《時針、分針、秒針、カレンダー（曜日、日付）の基準位置修正方法》

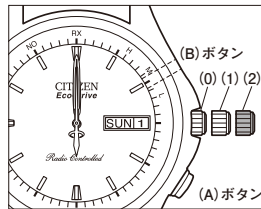
手順1) (B)ボタンを約5秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離し、運針中にりゅうずを2段引き((2)の位置)にし、そのまま待ちます。

手順2) りゅうずを回して日付を「1」に合わせます。

1. りゅうずを右に連続回転(2クリック以上)させると、日付が連続で切り替わり、左に連続回転で戻ります。

●連続切り替えを停止させる場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

2. 文字板窓枠の中心に「1」が見えたら、りゅうずを左右どちらかに回し停止させます。



- (A) ボタンを1回押すごとに修正する日付、曜日や秒針が動き、修正するモードをお知らせします。

手順3) (A)ボタンを1回押し、りゅうずを回して曜日を「SUN」に合わせます。

- りゅうずを右に連続回転(2クリック以上)させると、曜日が切り替わり、左に連続回転で戻ります。

手順4) (A)ボタンを1回押し、りゅうずを回して針を「0時0分0秒」に合わせます。

1. りゅうず右回転(1クリック)で、秒針が高速で1分進み、左回転で戻ります。
2. 連続回転(2クリック以上)させると、秒針が高速に回り、連動している分針、時針が連続運針します。

手順5) 基準位置合わせ後、りゅうずを通常位置に戻し、(B)ボタンを1回押すと各針と日付、曜日が高速で現在時刻およびカレンダーに戻ります。

- これで基準位置合わせは終了ですが、現在時刻にならない場合は、「強制受信」を行い、正しい時刻に合わせてからご使用ください。

光 発 電

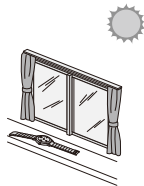
10. 光発電機能について

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。一度フル充電すると、約6カ月間時刻を刻み続けます。

〈この時計の上手な使い方〉

この時計を快適にご使用いただくためには、常に明るい場所での保管を心がけてください。

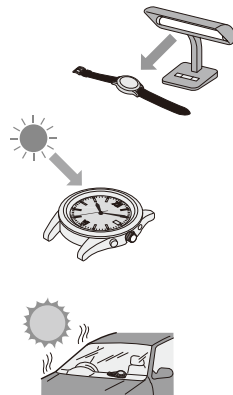
◆時計を外したときも、時計の文字板に太陽光が当たる、窓際等の明るい場所に置くように心がけると、常に充電を続け時計は動き続けます。



◆充電は、文字板に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。

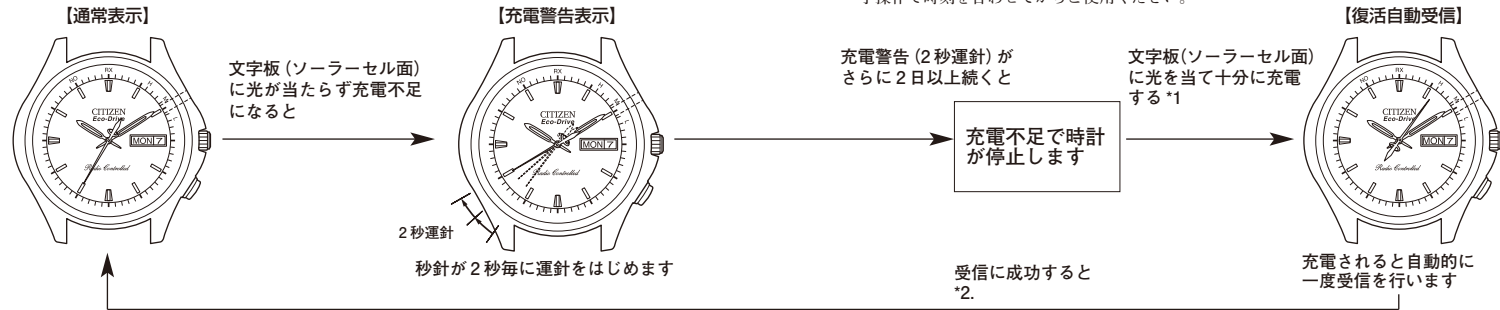
◆日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
月に一度は直射日光を当てて、充電されることをおすすめします。

注意▶ 車のダッシュボード等の高温になる場所での充電は避けてください。



11. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について

◎この時計は、充電不足になると表示が次のように切り替わります。



*1. 充電不足で停止した場合

光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約30分かかります。

それ以降も「充電時間の目安」を参考に、十分充電を心がけてください。

*2. 復活自動受信に失敗した場合

1秒運針をしていても時刻がちがっているため、フル充電後、強制受信または、手操作で時刻を合わせてからご使用ください。

A. パワーセーブ機能

文字板に光が当たらない状態が続きますと、各針が12時位置で止まりパワーセーブ(節電状態)になります。

機 種	H100	H10A	H10B
パワーセーブの待機時間	90 日	7 日	7 日
パワーセーブの定時受信	行う	行わない	行わない

*時計内部では常に時刻を刻んでいます。

パワーセーブ中、定時受信をする機種について、保管環境によっては受信できない場合もあります。

パワーセーブ解除後は、(A) ボタンを1回押して受信結果を確認してください。受信結果が「NO」の場合は、強制受信を行ってからご使用ください。



*お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

〈パワーセーブの解除方法〉

文字板に光を当てると、パワーセーブが解除されます。

- パワーセーブが解除されると、各針が高速で現在時刻に戻り、1秒運針になります。
- 充電不足の場合は、2秒運針をはじめます。十分充電をし、1秒運針に戻してください。

注意

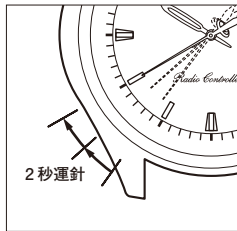
りゅうず、または、ボタン操作ではパワーセーブは解除できません。
光を当てて解除してください。

B. 充電警告機能

秒針が1秒運針から2秒運針に切り替わり、充電不足になったことをお知らせします。2秒運針をはじめてから、光が当たらない状態が約2日以上経過すると、時計は止まります。

注意 ▶▶ 2秒運針しているときは定時受信、強制受信および手動での時刻修正はできません。

◆「受信」「受信結果の確認」「時差修正」「基準位置の確認/修正」の最中に充電不足が発生すると、自動的に操作を中断し操作前の時刻に戻り、2秒運針をはじめます。
充電不足にならないように、常に充電を心がけてください。



C. 過充電防止機能

どんなに充電しても二次電池や時間精度、機能、性能等に影響をおよぼす心配はありません。

文字板に光が当たり、フル充電になると、それ以上は充電されないように自動的に過充電防止機能が働きます。

D. 充電時間の目安

時計のモデル (文字板の色など) により充電時間は異なります。
あくまでも目安としてご利用ください。

(表 1) * 充電時間は連続照射時間です。

照度 lx (ルクス)	環 境	充電時間 (約)		
		1 日分の 充電時間	停止状態から 1 秒運針する までの時間	フル充電 までの時間
500	屋内照明	4 時間	15 時間	—
1,000	蛍光灯 (30W) の下 60cm ~ 70cm	2 時間	7 時間	—
3,000	蛍光灯 (30W) の下 20cm	40 分	2.5 時間	150 時間
10,000	曇天	12 分	1 時間	45 時間
100,000	夏の日の直射日光下	5 分	40 分	30 時間

* 秒針が 2 秒運針している場合も、“フル充電までの時間”を参考に十分充電してください。

1 日分の充電時間…時計を通常運針で 1 日動かすのに必要な充電時間。
フル充電時間………時計が充電不足で停止している状態から最大に充電される
までの充電時間。

注 意 ▶ フル充電後は機種により持続時間が異なります。

機 種	H100	H10A	H10B
持続時間	約 6 カ月		
パワーセーブ作動時	約 1 年間	約 2 年間	

ただし、充電不足で停止してしまうと左の表 1 のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心がけてご使用ください。なお、月に一度は直射日光を当てて充電されることをおすすめいたします。

E. 取り扱い上の注意

警告 二次電池の取り扱いについて

- ◆お客様は時計から二次電池を絶対に取り出さないでください。
やむを得ず電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談して治療を受けてください。
- ◆一般のゴミと一緒に捨てないでください。
発火、環境破壊の原因となりますので、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

警告 指定の二次電池以外は使用しないでください

- ◆他の種類の電池を組み込んでも、時計は作動しません。
無理に一般の銀電池を使い、充電されると過充電となり、電池が破裂して、時計の破損および人体を傷つける危険がありますので、絶対に行わないでください。

注意 充電上の注意

- ◆高温下(約 60℃以上)での充電は避けてください。
外装部品の変色、変形およびムーブメント部品の故障等の原因となります。
例) ・白熱灯、ハロゲンランプ等、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電。
・車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電。
- ◆白熱灯、ハロゲンランプ等、高温になりやすい光源で充電するときは、必ず 50cm 以上離して、時計が高温にならないように注意して充電してください。

故障かな？と思ったら

《電波受信機能について》

故障かな？と思ったら時は、以下の項目をご確認ください。

状 況	確 認	対 処 方 法
受信を開始しない。	●秒針が「RX：受信準備」に移動しますか？	●(A)ボタンを押し続け、秒針が「RX：受信準備」位置を指したら、指を離してください。
受信はできるが、時報等の時刻と合わない。	●基準位置が正しくセットされていますか？ 基準位置の確認をしてください。 👉 P.29	●基準位置が正しくない場合は、「基準位置の修正方法」をご参照し、合わせ直してください。 👉 P.30

状 況	確 認	対 処 方 法
受信できない。 (受信可能地域内で)	●電波をしゃへいする物やノイズが発生する物が近くにありますか？ ●窓から遠い場所で受信していませんか？	●電波をしゃへいする物や、ノイズが発生する物を避けて、時計の9時位置を送信所に向け受信してください。 場所、方向、角度を何度か変えて窓際の受信しやすい場所を探してください。 👉 P.16
	●受信中で秒針が「RX」または、「H、M、L」を指しているときに時計を動かしていませんか？	●受信が終了するまで（通常運針にもどるまで）時計を動かさないでください。 (受信にかかる時間が約2分～最大13分かかることがあります)

《エコドライブについて》

状 況	確 認	対 処 方 法
●秒針が2秒毎に動いている。 ●時計が止まってしまった。 ●充電しても動かない。	●十分に太陽光に当てていましたか？	●充電時間の目安を参考に十分に充電を行なってください。 👉 P.40 ●充電したにもかかわらず動かない場合は、最寄りの弊社お問い合わせ窓口にご相談ください。 👉 P.61

状 況	確 認	対 処 方 法
●時計を机やタンスなどから出した瞬間に、針が早送りされる。		●光が当たったことにより、パワーセーブ（節電状態）が解除され、現在の時刻まで早送りされたためです。そのままお使いください。 👉 P.36

お取り扱いにあたって

⚠ 警告 防水性能について

- 日常生活用防水時計(3気圧防水)は、洗顔などには使用できますが、水泳などには使用しないでください。
- 日常生活用強化防水時計(5気圧防水)は、水泳などには使用できますが、素潜り(スキndaイピング)やスキューバ潜水などには使用しないでください。
- 日常生活用強化防水時計(10/20気圧防水)は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用しないでください。

名称	表示	仕様
	文字板又は裏蓋	
日常生活用防水時計	WATER RESIST (ANT)	3気圧防水
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST (ANT) 5 bar	5気圧防水
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST (ANT) 10/20 bar	10気圧防水 20気圧防水

使用例				
				
水がかかる程度の使用。(洗顔、雨など)	水仕事や、一般水泳に使用。	スキndaイピング、マリンスポーツに使用。	空気ポンベを使用するスキューバ潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
○	×	×	×	×
○	○	×	×	×
○	○	○	×	×

- りゅうずを引いた状態では、防水性能に関係なく浸水してしまうのでご注意ください。
- 時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図を参照して正しくご使用ください。(1barは約1気圧に相当します)
- WATER RESIST (ANT) ×× barはW.R.×× barと表示している場合があります。

注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたまま、りゅうずやボタンの操作をしないでください。
時計内部に水分が入り、防水不良となる場合があります。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活用強化防水時計の場合は脱色、接着はがれなどの不具合を起こすことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用ください。
- 日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸した時や多量の汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。
- 万一、時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときはそのまま放置せず、お買い上げ店または、最寄りの弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。
- 時計内部に海水が入った場合は、箱やビニールに入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、ボタンなど）が外れる危険があります。

注意 バンドのお取り扱いについて（着脱時の注意）

- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

注意 携帯時の注意

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- ウレタンバンドは、衣類などの染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。

注意 時計は常に清潔に

- ケースとりゅうずの間にゴミや汚れが付着したまま放置しておくと、りゅうずが引き出しにくくなることがあります。時々、りゅうずを通常位置のまま空回りさせてください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐに医師に相談してください。

かぶれの原因

1. 金属、皮革アレルギー
 2. 時計本体及びバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗など
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
 - 皮革バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。

＜時計のお手入れ方法＞

- ケース、ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
- 皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。
- 金属バンド／プラスチックバンド／ウレタンバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで取り除いてください。
- 溶剤類（シンナー、ベンジンなど）の使用は、変質の恐れがありますので避けてください。

＜文字板や針が光っている場合＞

時計の文字板や針には、放射線物質などの有害物質を一切含まない人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。

この塗料は、太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出していくと、少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、照射時間、蓄光塗料の量などによって発光する時間に誤差が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合があります。ご注意ください。

＜温度について＞

- －10℃～＋60℃の温度範囲外では機能が低下したり、停止することがあります。製品仕様範囲外でのご使用はお避けください。

＜磁気について＞

- アナログ式クォーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

＜静電気について＞

- クォーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜ショックについて＞

- 落としたり、強くぶつけるなど衝撃は与えないでください。

＜化学薬品・ガスについて＞

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含むもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には充分注意してください。

＜保管について＞

- 長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。
- 時計を長期間ご使用にならない場合、できるだけ光が当たる場所での保管をお勧めします。

製品仕様

1. 機種：H100・H10A・H10B
2. 型式：アナログソーラーパワーウォッチ
3. 時間精度：非受信時(電波を受信していないとき) 平均月差±15秒
常温(+5℃～+35℃) 携帯時
4. 作動温度範囲：-10℃～+60℃
5. 表示機能：●時刻：時、分、秒
●カレンダー(曜日・日付)
6. 付加機能：●電波受信機能(定時受信、強制受信、復活自動受信)
●受信局自動選択機能(日本標準電波専用)
●受信準備表示機能(RX)
●受信レベル表示機能(H、M、L)
●受信結果確認機能(H、M、L) または (NO)
○JIS 1種耐磁
○衝撃検知機能
○針補正機能



- 時差修正機能
- 基準位置確認/修正機能
- 光発電機能
- パワーセーブ機能(節電)
- 充電警告機能(2秒運針)
- 過充電防止機能

7. 持続時間：フル充電後、充電しないで時計が停止するまで

機 種	H100	H10A	H10B
パワーセーブが作動しているとき	約1年	約2年	
パワーセーブが作動していないとき	約6カ月		
充電警告表示～充電不足で 時計が停止するまで	約2日		

8. 使用電池：二次電池 1個

※製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービスについて

＜保証について＞

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

＜修理用部品の保有期間について＞

当社は、時計の機能を維持するための修理用部品の通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・ボタン・バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

＜修理可能期間について＞

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

＜ご転居・ご贈答品の場合＞

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

＜定期点検(有償)について＞

安全に永くご使用いただくために、2～3年に一度、点検(有償)を行ってください。防水時計の防水性能は、経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやパネ棒などの交換を行ってください。部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

＜修理について＞

時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

＜その他お問い合わせについて＞

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または、最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。